

研究課題（テーマ）		Reducing maximum interface pressure in the lateral position by investigating optimal mattress internal air pressure using an oval buttock model	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 看護学科	助教	川端 崇広
研究結果の概要			
【背景・目的】 褥瘡予防のために体圧分散寝具上で体位変換ケアが臨床環境で実施されている。褥瘡好発部位の体圧を取り除くために継続した体位変換ケアが有効である。体位変換ケアは、体位変換スケジュールに従い、仰臥位、左右の側臥位を交互に繰り返すのが基本である。しかし、側臥位に関して仰臥位と同じマット内圧のまま体位変換されているのが実際である。この点を踏まえると、仰臥位の内圧設定のまま側臥位に体位変換を行うことで適切なマット内圧でないことが褥瘡発症や再発に至る可能性がある。そこで、体圧分散寝具上で側臥位における体圧分散機能の関連性を調べることを本研究の目的とする。 【材料・方法】 褥瘡患者の骨盤を基本設計とした楕円形臀部モデル（側臥位設定）を用いて、各マット内圧で、体圧分散寝具上で側臥位における体圧分散機能を経時的に30分間測定する。 【結果】 マット内圧を適切に上げることが体圧分散を良くする結果を得た。 【結論】 本研究の成果は、基礎看護学の褥瘡予防に関わる経験則の根底を覆す新しい知見であり、教育研究に大きく貢献できた。			
今後の展開			
投稿した国際誌の査読者コメントを踏まえて、令和6年度は本研究課題の追加実験を行い、著者の主張をよりサポートできる他の側面からの科学的根拠を述べ、論文の信頼性を上げる。他の褥瘡専門の国際誌に投稿して、従来の経験則の体位変換の知見を塗り替えて、臨床で患者に正しい方法によるケアを届ける。			